

実践報告 I

《作者の心情や作品の背景を
想像しながら、鑑賞する。》

— 「推論」 —

国語総合（俳句・短歌／正岡子規）



高槻美保・平松克子

	国 語 科 学 習 指 導 案 平成 22 年 9 月 15 日（水）2 校時 1 年 7 組（第二次第 1 時） 指導者 高槻美保 3 校時 1 年 6 組（第二次第 2 時） 指導者 平松克子
単元名	短歌や俳句
学習材	いちはつの花 —— 短歌抄 白牡丹 —— 俳句抄（『国語総合』東京書籍）
目標	○短歌や俳句の世界に親しみを持つ。（関心・意欲・態度） ○叙述に即して内容を的確に読み取る。（読む能力） ○内容から想像力を膨らませ、描かれた心情や情景を読み深める。（読む能力） ○表現の特色及び言語の役割などを理解している。（知識・理解）
指導上の立場	○生徒観 対象生徒は、国語の授業に対する意欲を持っているものの、自ら考えて、読みを深めようとしたり表現したりする姿勢の乏しい生徒も見受けられる。一方、班活動においては互いに意見を出し合いまとめる様子も見られるため、指導上の手だてによって短歌や俳句に描かれた心情や情景を深めることが期待できる。 ○題材(単元)観 興味・関心を持って取り組むことができるように、まず現代短歌を取り上げた後、近代から現代に至るまでの代表的な歌人や俳人の作品を学習させる。 伝統的な定型詩としての短歌や俳句の言葉の働きを通して、内容を深く味わう態度を身に付けさせるとともに、感性や想像力を豊かにしたい。さらに、詩歌における情景や心情を読み取り、表現方法とその効果を理解してより深く味わう鑑賞力を養う。 ○本単元で工夫する点や手だて 想像力を膨らませたり、自分の考えを表現したりする上で避けて通れないのが語彙である。その不足を補うため、1 学期には、詩をもとに文章表現をさせたり、文学作品や日常会話などから、心情や五感を表す言葉を拾い出させたりする活動を行った。また、他者の意見を参考にしながら積極的に自ら考えることができるように、班活動の形態を考えている。互いの文章を読み合うことにより、自分の文章との違いについて考え、自らの読みを深めることができるように配慮する。
指導計画	全 10 時間扱い 第一次：現代短歌の読解 第 1・2 時 現代短歌の読解 第二次：正岡子規の短歌や俳句の読解 …………… 本時 第 1 時 書かれている言葉を基にして、作者や人物の置かれている状況や設定をつかむとともに、想像力を膨らませ、文章化する。 第 2 時 互いに文章を読み合い、自分の文章との違いについて分析し、読みを深める。 第三次：その他の短歌や俳句の読解
評価	○具体の評価規準 ・短歌や俳句の世界に親しみを持つことができているか。（関心・意欲・態度） ・叙述に即して内容を的確に読み取ることができているか。（読む能力） ・内容から想像力を膨らませ、描かれた心情や情景を読み深めることができているか。（読む能力） ・表現の特色及び言語の役割などを理解することができているか。（知識・理解） ○C と評価した生徒に対する手立ての例 ・必要に応じて、辞書で調べたり、他者の意見を聞いたりしながら、内容を読み深めるよう助言する。

※本時案はありません。

実践 I

考察

① 成果

新学習指導要領「国語総合」の目標にある「想像力を伸ばす」ための指導の試みとして、本単元では、俳句と短歌を取り扱った。その中で、今回の実践は、正岡子規の俳句や短歌を中心としたものである。正岡子規が病床に伏し、自分の死を意識しながら死期を迎えるまでの作品を中心とし、俳句や短歌の内容から想像力をふくらませ、描かれた情景や心情を読み深めるというものであった。

生徒の中には、自らの読みを深めたり表現したりすることに苦手意識を持っている者もいる。しかしながら、班活動を通して互いに意見を出し合うことによって、他者の意図を推測（＝推論）したり、個々の読みを深めたりすることができたと考えている。また、ワークシートを活用したり、以前に語彙不足を補う活動をしたりしていたこともあり、作者の心情や作品の背景を自ら考え、表現する活動を行うことができた。

今回の実践は、文学的な作品において「想像力を伸ばす」取り組みであった。文学的な文章と論理的な文章のそれぞれについて「想像力」を研究していくという、今後の方針も明確になり、研究の足がかりになったと考えている。

② 課題

目標の一つである「想像力を伸ばす」ということについて、高等学校段階での「想像力」とは何か、どのような指導方法があるのか、「想像力」が伸びたということを何によって判断するのか、「想像力」の評価はどのように行うのかなど、まだまだ手探りの状態での実践であった。

そのような状況のなかで、今回は、班活動を取り入れることを試みた。個人では限界がある想像の世界を、他者の意見を参考にすることによって広げることができるのではないかと考えたためである。確かに生徒の個々の読みは深まったが、班活動を行う上での課題も多かった。時間配分、指示の出し方、生徒への意識付け、班内での役割分担、机の配置など、今後に向けての改善すべき点が明確となった。

国語科としての「想像力」は、あくまでも言葉を根拠とし想像していくということが基本である。そのためには、まず作品中の言葉を十分に理解する必要がある。しかしながら、今回はこの点が曖昧になってしまい、四つの作品の全体の大まかな世界をとらえるにとどまってしまったという反省点がある。さらに、生徒自身の言葉で表現させるということにおいては、中心となる心情をおさえた上で、どの視点からどのような形で表現させるのか、さらに評価をどうしていくのかという課題が残された。

正岡子規（クリアカラー P 2 3 4 参照）（教科書 P 1 1 0）
歌人・俳人（ ）歳で死去 根岸短歌会創立
俳句・短歌の革新（ ）を提唱
歌論書『 』 歌集『竹の里歌』

【短歌】教科書 P 1 0 7

季節 意味 作者はなぜそう言っているのか 意味

（ ） （ ）（ ）

いちばつのはな咲きいでて我目には今年ばかりの春ゆかんとす
明治34年

季節 どのような位置からみていると思われるか

（ ） （ ）

瓶にさす藤の花ぶさみしかければたたみの上にとどかざりけり
明治34年

【俳句】教科書 P 1 1 2

季節 意味

（ ） （ ）

鶏頭の十四五本もありぬべし
明治33年

季節 誰のことか どのような状態であると思われるか

（ ） （ ） （ ）

糸瓜咲いて疲のつまりし仙かな
明治35年

訳

心情

訳

心情

訳

心情

訳

心情

*書かれた言葉から状況や心情を想像する。
*よりふさわしい言葉を探して表現する。
それぞれの短歌や俳句の内容を文章にしよう。

右の内容から、作者の状況と心情をその立場になって考えて書いてみよう。
(五感と心情を表す言葉を入れながら、歌や句の言葉も使って書く)

私は

- 20 -

現代文 短歌・俳句 鑑賞 プリント② 1年組 番()

*自分の文章と他の生徒の文章を比較して、自分の文章とは異なる言葉や内容を書いてみましょう。

生徒氏名	自分の文章とは異なる言葉や内容				

*班全員で考えた作者の状況と心情をまとめてみよう。

作者の状況は
作者の心情は

*感想をまとめてみよう。

--

つまり、寝た状態でも、庭先から感じることのできる季節
花…寝た状態でも、庭先から感じることのできる季節

正岡子規 (クリアカラー p234参照) (教科書 p110)
歌人・俳人 (一 芥) 歳で死去 根岸短歌会創立
俳句・短歌の革新 (写 五 文) を提唱
歌論書『歌よみにふくる書』 歌集『竹の里歌』

【短歌】教科書 p107

作者はなぜそう言っているのか

(既に病に倒れており今年の春もう終りに
と病から)

季節 初夏

(晩春) 意味 (自分の目には今年だけ) (過ぎようとする)

いちはつの花咲きいでて我目には今年ばかりの春ゆかんとす

季節

(晩春)

どのような位置からみていると思われるか

(寝ころんだ状態)

瓶にさす藤の花ぶさみじかければたみの上にとどかさりけり

【俳句】教科書 p112

季節

(晩秋)

意味

(あるにちがいない)

鶏頭の十四五本もありぬべし

季節

(夏)

誰のことか

(自分)

どのような状態であると思われるか

(末期)

糸瓜咲いて疲のつまりし仏かな

疲をこえるのによく効くらしい(へチマ水)

*書かれた言葉から状況や心情を想像する。
*よりふさわしい言葉を探して表現する。
それぞれの短歌や俳句の内容を文章にしよう。

訳

いちはつの花が咲きだして
私の目には今年だけの春が過ぎようとして
いるように見える。

心情

いちはつの花が咲きだしてもうすぐ私にと
の最後の春が終わろうとしていくのだろ
う。もう私は来ない。皮肉。傳へ。

訳

瓶にさす藤の花ぶさみじかければ
たみの上にとどかさりけり。
とどかないなあ。

心情

もうなつと長く切れば良かったのに。
和せ。向こう側の景色(光)がへてくる。
く。何となく。つくづくなかにの長さです。切る人

訳

鶏頭の花は十四五本はじめるに
ちがいない。

心情

もう秋だ。鶏頭も咲いているようだが
見に行くともう咲かない。十四五本ほど
咲いているんだらうなあ。ちがいない。
鮮やかな秋。綺麗なものだ。け。咲いているのか。

訳

糸瓜も咲いているがもう自分には
効かないのだ。既に疲のつまりし状態。

心情

糸瓜をつつしてももう自分の病には
効かない。すぐにでも仏になろうというの
だ。ダメなやつ。

右の内容から、作者の状況と心情をその立場になって考えて書いてみよう。
(五感と心情を表す言葉を入れながら、歌や句の言葉も使って書く)

私は何故病にかかってしまったのだろうか。外を歩くこともできないし、と床にふ

すしかない。それでも、小とんの上で庭に花瓶を見るといつも鮮やかな花が彩っている毎日

誰かが手入れしてくれているのだろうか。外に出ることはできないし、近くで見ること

もなかなかできない。どれ程暑いのか寒いのか風が心地良いのかわからない。しかし

こうして今日に見える花を見ているだけで四季を感じることができる。

床に伏してから見えて来にもものもある。たのかもしれない。そう考えるとうらみ事だけ

というわけでもないのが皮肉なものだ。

現代文 短歌・俳句 鑑賞 プリント② 1年 組 番()

*自分の文章と他の生徒の文章を比較して、自分の文章には、なかった内容を書いてみましょう。

生徒氏名	自分の文章には、なかった内容
	すごくじの中が空っぽになった。
	たとえこの花々が枯れてしまっても、私の命は枯れないでほしい。
	残りわずかな人生を一日一日がみしめて生きている。
	あと少しの人生を楽しくいのない人生にしようとしている。
	思いよせばずんずんよってくるたくさんの思いよ。

*班全員で考えた作者の状況と心情をまとめてみよう。

作者の状況は

もう死が迫ってきているような状況

作者の心情は

死ぬまで一生懸命生きていきたい。悔いの残らない人生にしたい。

*感想をまとめてみよう。

自分のと比べてみると、みんなの文章は前向きであるところとかがあるけれど、自分のには常に消極的というかみんなの逆の気持ちをしていっているように思えた。実際に著者の心情を考えていくと、その時の著者の本物の心情を知りたくなった。